



博物館の窓

学芸員 持田 誠

第115回

薬箱に保管されていた手紙など

桑原新聞店の桑原瀧子さんから、木に墨書きの古い薬箱を寄贈いただきました。おじいさんが使われていたものだそうので、中は薬では無く、各種徽章や記念品の杯などがたくさん入っていました。

そして、それらに混じって、大量の郵便物が出てきました。それらは、領収書などの仕事に関する書類のほか、さまざまなお知らせが多く、地域の歴史にとって重要な資料となりそうです。

いまの時代、私信はメールやLINEなどが中心になり、紙として残りません。そうすると、歴史として残るものも少なくなるかもしれません。



薬箱は滋賀県の増田薬舗のもの。「御薬品入」と書かれており、毎年やってくる「薬売り」の行商人から買った常備薬を入れておくために使われた。こうして、小物や手紙を入れる用途に転用されていることも多く、使われ方自体も風俗の記録になる。